

部会で出された主なご意見と区役所の対応・考え方

番号	意見	当日の回答	区役所の対応・考え方	担当課
子ども青少年部会				
1	令和3年度の運営方針に関する自己評価では「関係するところはいずれも目標を達成している」との説明だが、目標は達成していても課題があると考えているものや今後、区長が力を入れていこうと考えているものは何か。	7月7日に開催した区教育行政連絡会で小・中学校の校長から不登校児童生徒への対策を求められたところであり、今後もしっかり取り組んでいきたい。 また、そのサポーターなどの人材確保も課題であることから、ボランティアとして活動していただける方には区役所を連絡先とするなど工夫してまいりたい。各委員やPTA、保護者の方で、例えば教員免許をお持ちであったり外国語が話せるなど、それぞれのお力をお借りできるとありがたい。	同左	
2	関係者として、小・中学校の校長先生も参加されているので、ここまで区から説明のあった事項（部活動の地域移行、不登校児童生徒への支援策）へのコメントや、学校の現状などを聞かせて欲しい。	(中学校) 生徒数の減少に伴って部活動の数も減少しているが、学校選択制で入りたいクラブのある学校を選択できる仕組みによって補っている状況である。現在の部活動は「教員と生徒」の関係であり、教員に専門の指導者はいない。専門の指導者となるかなりの費用がかかることになり、ボランティアの方に頼るにしてもどのような方かによってもいろいろと変わってくる。また、土日と平日を切り分けることも難しく全て地域に移行する方がいいと思う。いずれにしても学校現場の理解が追いついていないのが現状である。 (小学校) コロナ禍で学校での取組みが変改しており、教員の負担も大きくなっている。 また、教員の実数が少ないことが課題である。教員を目指す学生も減っていたり、現在では教員も感染して休むこともあり、特に小学校では学級担任が休むと代替に充てる教員がいらない。また、この補充の先生も入らない状況である。 不登校への対策として、サポート支援をいただいているが、サポーターとの相性というのが重要でもある。 これまでの経験では不登校の原因は複合的なものであって難しく、「やっぱり先生が不登校児童をサポートすることが軸」のように感じている。	同左	協働まちづくり推進課
3	前回（令和4年2月28日）の区政会議子ども青少年部会において、当時の筋原区長から学校配置の適正化について説明があったが、その後、どのように検討が進められているか。	1 前回の部会で当時の筋原区長から「現在単学級である築港小と築港中は小中一貫による特色ある学習内容とし、対象生徒の範囲を大阪市全体に広げることができないかと考えている。「少ないから統合」というだけでなく万博以降の発展を見据えて、未来に希望のある新しい学校を作ろうというのを皆さんに相談したいと思っている。例えば、八幡屋エリアは入舟公園や近隣センターの敷地で港中学と向かい合わせで、小中一貫の新しい学校を作るなど、「アイデア」ではあるが、PTAや保護者の皆さんの話を聞きながら、希望の広がる学校を作りたいと思っている。」と説明させていただいた。 2 今、内部でさまざまな検討をしているところだが、例えば公園の活用などは難しい問題があることも分かってきた外、築港中学校の1年生は15人しかいなく、うち女子生徒が4人のみなどのかなり課題がある環境であると再認識している。また、この学校にヒアリングを行った中で、教員や生徒から部活動のしんどさ、高校進学後に新しい人や大勢の人と交わることへの不安の外、併せて小規模の学校の良さがあることも伺ってきたところである。今後、地域の方や学校の意見も聞きながら検討を進めたい。 また、学校選択制によってエリアで片寄りが生じている状況もあるが、区の判断で制限をかけると不利益を被る方も出てくるなどの側面もあり難しく、まずは市で行っているワーキングでの検討を見守りたい。	同左	